

佐渡御勘気抄

文永八年一〇月初旬 五〇歳

九月十二日に御勘気を蒙りて、今年十月十日佐渡国へまかり候なり。

本より学文し候ひし事は、仏教をきはめて仏になり、恩ある人をもたすけんと思ふ。仏になる道は、必ず身命をすつるほどの事ありてこそ、仏にはなり候らめと、をしはからる。既に経文のごとく、「悪口罵詈」「刀杖瓦礫」「数々見擯出」と説かれて、かゝるめに値ひ候こそ、法華経をよむにて候らめと、いよいよ信心もおこり、後生もたのもしく候。死して候はゞ、必ず各々をもたすけたてまつるべし。

天竺に師子尊者と申せし人は檀弥羅王に頸をはねられ、提婆菩薩は外道につきころさる。漢土に竺の道生と申せし人は蘇山と申す所へながさる。法道三蔵は面にかなやきを焼かれて、江南と申す所へながされき。是皆法華経のとく、仏法のゆへなり。日蓮は日本国東夷東条安房国、海辺の旃陀羅が子なり。いたづらにくちん身を、法華経の御故に捨てまいらせん事、あに石に金をかふるにあらずや。各々なげかせ給ふべからず。

道善の御房にも、かう申しきかせまいらせ給ふべし。領家の尼御前へも御ふみと存じ候へども、先づかゝる身のふみなれば、なつかしやと、おぼさざるらんと申しぬると、便宜あらば各々御物語り申させ給ひ候へ。

十月 日

日 蓮 花 押